



発行所  
東海愛知新聞  
〒444-0852 岡崎市南明大町  
電話 0564-51-  
FAX 0564-51-  
E-mail tokai-a@m2.catvmi  
http://home1.catvnews.jp/

# まちおこしを後世へ

## 岡崎 作左の会が活動記録まとめる

日本一短い手紙で知られる戦国武将本多作左衛門重次(一五二九-一六〇六年)の生誕地岡崎市六ツ美西部学区の住民らで組織するまちおこし団体「一筆啓上・作左の会」がこのほど、平成十二年から会員向けに発行してきた広報紙「作左通信」をまとめた冊子「作左通信から見た活動の歩み」を刊行した。十七年間の活動記録が詰まった一冊は、後世にまちおこしを引き継ぐための貴重な資料になっている。



「作左通信から見た活動の歩み」をPRする  
兵藤大(右)と重次大(左) 岡崎市赤坂町で

### コラムを追加

重次は松平清康、広忠、徳川家康の三代に仕えた武将。剛直な性格の一方で、長篠の合戦(一五七五年)時には日本一短い手紙「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」を妻に送り、家族を思いやる人情味豊かな人物として評価されている。

同会は、重次の人柄をしるべき、地域振興に生かすこと、平成十一年

十二月に結成。作左通信は翌十二年二月に第一号を発行し、現在まで年六回のペースで出し続けている。二十年には、第三十八号までの作左通信を冊子化した。バックナンバーとしての要素が強かったため、今回は編集委員会を設けて本格的に取り組んだ。第八十二号(今年二月発行)までの作左通信に加え、

「コラム」という形で掲載した。また、資料編として会員数の推移(五月一日現在、個人百八、法人三十五)や歴代役員、研修旅行・講演会の一覧、俳句、短歌を募集する「ふるさと賞」応募数の推移など

も載せた。

編集委員長の兵藤紀之会長(右)は「六ツ美西部学区のまちおこし活動を次世代に残すための一冊。継続は並大抵なことではない、副委員長の廣重敦さん(左)は「作左の会の原点を知ってもらい、これまで頑張ってきた人の思いを残したかった」と思いを語る。

百冊作成  
五百円、  
する。兵藤会  
1、